

SHAPE 新しいB&Gのカタチ THE FUTURE

第10回 B&G 全国サミット 2018年1月24日(水)

オープニング 岩手県立高田高等学校 書道部

第一部 14:00～ 笹川記念会館 2F 国際会議場

1. 主催者挨拶 B&G 財団 会長 前田 康吉
2. 来賓紹介
3. 特別基調講演 日本財団 会長 笹川 陽平 様
明治150年「日本の未来は明るい」

休憩

第二部 15:20～

4. 「B&G 全国サミット」正副会長選任
5. 正副会長挨拶
6. 第14回 B&G 全国教育長会議の報告
B&G 全国教育長会議 会長 山口県岩国市 教育長 佐倉 弘之甫 様
7. パネルディスカッション「未来を形創る新しい取組み」
・埼玉県松伏町長 鈴木 勝 様 ・岡山県奈義町長 笠木 義孝 様
・大分県中津市長 奥塚 正典 様 ・熊本県湯前町長 鶴田 正巳 様
8. B&G 財団の取組み
9. 第10回 B&G 全国サミット共同宣言

第三部 16:45～

10. 優良海洋センター表彰

レセプション 17:20～ 笹川記念会館 4F ホール

ご挨拶 | 第10回「B&G全国サミット」の開催にあたり



ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
会長 前田 康吉

本日は、第10回「B&G全国サミット」を開催いたしましたところ、公務ご多忙のなか、全国390ヵ所の海洋センター所在自治体から、200名を超える市町村長をはじめ、副首長や教育長など大変多くの皆様にご列席をいただきました。主催者を代表して心より厚くお礼申し上げます。

また、ご来賓として、日ごろからB&G財団に多大なご支援をいただいております日本財団をはじめ、ボートレース関係団体の代表者にもご臨席を賜り、重ねて厚くお礼申し上げます。

ご承知の通り「B&G全国サミット」は、市町村長、教育長にお集まりいただき、B&G財団と自治体、また自治体相互での情報を共有し、未来を担う子供たちの健全育成をはじめ、地域の活性化・発展を目指し、連携を強化するための最重要会議でございます。

このサミットは、平成の大合併が進展する2003年度から開催し、今回で10回目を迎えることが出来ました。皆様のご理解とご協力により、これまでにも他に類を見ないB&Gネットワークの絆を活かした「自治体間交流」や「災害時の相互応援」の推進が宣言されるなど、この会議を通してより強固な連携体制が確立することに期待を寄せているところでございます。

現代社会では常に「変化」が求められており、少子高齢化や経済格差、地域コミュニティの衰退、自然災害など山積する諸問題に対し、皆様方も様々な観点から対応策を講じられていることと存じます。

B&G財団でも、これまでのイメージにとらわれることなく、「海洋センター」をスポーツ振興の場に止まらない、誰もが気軽に集える多目的な施設とする取り組みや、子供たちの体験格差を解消する事業など、時代が求める新たな活動を行っているところでございます。

そのようなことから、本日の会議では、「Shape the future -新しいB&Gのカタチ-」をテーマに、自治体の未来を見据えた新しい取り組みや最近の財団事業を説明してまいりたいと考えております。

また、本会議の開催に併せて、毎回皆様がたいへん楽しみにされている、日本財団会長の笹川 陽平 様による『明治150年「日本の未来は明るい」』と題した特別基調講演をいただきます。

なお、会議終了後にはささやかではございますが、「レセプション」をご用意しておりますので、ご出席の皆様と積極的な情報交換を行っていただきますようお願い申し上げます。

おわりに、今後とも当財団は、海洋センター・海洋クラブ・自治体関係者の皆さまと手を携え、次の10年に向け更なる飛躍につながる事業を展開してまいり所存でございます。どうぞ本日もご出席の皆様には引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげ、挨拶とさせていただきます。





日本財団 会長
ミャンマー国民和解担当日本政府代表
笹川 陽平 様

【略歴】 1939年 東京生まれ。明治大学政治経済学部卒。

ハンセン病の世界制圧を目指し、世界保健機関ハンセン病制圧特別大使として1年の3分の1近くを発展途上国の現場で活動している。1985年に122カ国あったハンセン病未制圧国も、現在はブラジル1カ国を残すのみとなった。

医学的な制圧だけでなく、ハンセン病のもう一つの問題であるスティグマや差別との闘いも開始。2003年には初めて国連人権高等弁務官事務所を訪問し、人権問題として取り上げられることを要請した。これらの働きにより2010年12月には国連総会でハンセン病患者、回復者、その家族に対する差別撤廃が決議された。

2014年10月には、40年以上にわたりハンセン病制圧や患者・回復者が直面している差別と人権侵害をなくすために、WHO、各国政府、国際機関、非営利機関と密に協力して世界的に活動を続けてきたことが評価され、国際法曹協会（IBA）から、いわゆる法曹界のノーベル賞といわれる「法の支配賞」を日本人として初めて受賞。

次代を担う人材を養成しようと多様な教育プログラムを展開。世界69大学に奨学制度を設け、グローバルな視点で行動できる人材を養成、卒業した笹川奨学生は15,000人を超え、世界的なネットワークを構築している。

中国においては、30年間で2,200人以上の中国人医師を日本の大学医学部や医療機関で受け入れてきた。世界海事大学の奨学制度をはじめ海洋の専門家の育成にも取り組む。

2013年2月には日本政府より「ミャンマー国民和解担当日本政府代表」に任命され、60年以上の長きにわたり闘い続けてきたミャンマー政府と少数民族武装勢力との信頼醸成のため奔走し、2015年10月には、ミャンマー政府と8つの少数民族武装勢力が停戦協定合意に至り、日本政府代表として停戦協定署名の場に立ち会った。

40年以上にわたるマラッカ・シンガポール海峡の航行安全のための活動では、その功績が認められマレーシア国王からタン・スリ称号を拝受するとともに、2015年7月日本人として初の国際海事賞を受賞した。

旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故後、20万人の子ども達の健康診断を実施し、フランチェスカ・スカリーナ勲章を受章した。ミレニウム・ガンジー賞、読売国際協力賞など多数受賞。

国内外での活動は「日本財団会長 笹川陽平ブログ」で紹介している。



【日本財団会長 笹川陽平ブログ】

<http://blog.canpan.info/sasakawa/>

【主な著書】

- 『知恵ある者は知恵で躓く』（クレスト社）
- 『外務省の知らない世界の“素顔”』（産経新聞社）
- 『二千年の歴史を鑑として』（日本僑報社）
- 『この国、あの国』（産経新聞社）
- 『世界のハンセン病がなくなる日』（明石書店）
- 『人間として生きてほしいから』（海竜社）
- 『若者よ、世界に翔（はばた）け!』（PHP研究所）
- 『不可能を可能に 世界のハンセン病との闘い』（明石書店）
- 『隣人・中国人に言っておきたいこと』（PHP研究所）
- 『紳士の「品格」』（PHP研究所）
- 『残心 世界のハンセン病を制圧する』（幻冬舎）
- 『紳士の「品格」2』（PHP研究所）

【最新著書】

- 『愛する祖国へ』（産経新聞出版）



B&G人的会議の変遷

1973

B&G財団設立

「B&Gプラン」の推進

①施設づくり ②指導者づくり ③組織づくり ④海洋性レクリエーションの提供

1,400億円におよぶボートレースの収益金を投じ、480市町村に海洋センターを建設、無償譲渡

第1フェーズ

2002

第1回B&G全国市長会議 (2010年度までに5回開催)

海洋センターの更なる活性化及びネットワークの強化を図るため行政のトップである市長との会議を開催

第1回B&G全国教育長会議 (2017年度までに14回開催)

教育行政の責任者との意見交換及び道府県連絡協議会の活性化を図るため、道府県連絡協議会の幹事自治体の教育長を対象に開催。

2003

設立30周年を機に「スポーツ・健康・人づくり」をスローガンに各種ソフト事業の提供を開始
幼児や高齢者プログラム、海洋教育プログラム等の展開

第1回B&G全国サミット

町長・村長から全国の首長が一堂に集まれる機会を作って欲しいと要望がありサミットを開催

第2フェーズ

2008

第1回B&G全国町村長会議

町長・村長との意見交換の場として開催

2010

第5回B&G全国市長会議

B&G全国サミットの毎年開催及び教育長もサミットへの参加対象とすることが決議された。

第7回B&G全国教育長会議

ブロック連絡協議会の連携強化を図るため、ブロック連絡協議会幹事自治体の教育長も参加対象となる。

2011

第4回B&G全国サミット

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」からの復旧・復興をテーマに開催。被災地の復興支援に全力で取り組むことが共同宣言に盛り込まれ様々な活動が行われた。

2014

『青少年の健全育成推進計画（5カ年計画）』を策定

地域コミュニティの活性化を目指した海洋センターの多機能化を推進

第3フェーズ

2015

第8回B&G全国サミット

全国サミット共同宣言として「災害時等における相互応援」を採択。2016年4月に発生した「熊本地震」において、共同宣言に基づき、B&G所在市町村から支援物資や人的派遣等が被災地に届く。

2016

第13回B&G全国教育長会議

ブロック・道府県連協幹事以外の教育長からも出席したいとの声を受け、全教育長を参加対象とした。



第1回サミット(2003年度)では首長146名含む576名が出席



第9回サミット(2016年度)では過去最高となる首長223名含む830名が出席し会場は満席に

2017

第10回B&G全国サミット 開催

●10回記念オープニングパフォーマンス

岩手県立高田高等学校 書道部 (陸前高田市所在/部員17名)

・書道パフォーマンスの全国大会である「書道パフォーマンス甲子園」に出場(2012年度、2016年度)するなど、全国の舞台上で活躍中。

※陸前高田市B&G海洋センター(東日本大震災で全壊):2018年4月オープンに向けて再建中



第14回 B&G全国教育長会議 報告

第14回B&G全国教育長会議

海洋教育のススメ ～海でも山でも教室でも！～

2017年11月7日(火)、8日(水)に東京・港区の日本財団ビルで、全国の教育行政トップによる第14回B&G全国教育長会議を開きました。2020年以降の次期学習指導要領に海洋教育の充実が盛り込まれ、今年は「海洋教育のススメ～海でも山でも教室でも！～」をテーマに開催しました。44道府県から81人の教育長を含む109人の教育関係者などが出席。会議の最後に佐倉弘之甫会長(山口県岩国市教育長)が、全国教育長会議の新たな提言として「海洋教育の積極的推進」を提案して、満場の賛同で採択しました。海を学び体験する積極的な海洋教育の実践が求められるなか、学校教育と社会教育の両面から講演や事例をもとに課題を共有しました。

特別講演

「海洋楽のススメ」

海洋楽研究所 所長 林 正道氏



● 本物そっくりのウミガメロボットを紹介しながら熱く語った林氏

15年ほど前まで子供たちと海でイルカなどと遊ぶ海洋教室を全国で開催。その後大病を患い、泳げなくなったのをきっかけに沖縄に移住。研究所を創設して、浜辺のごみや漂流物などで、イルカやウミガメなど、数多くの海洋生物ロボットを開発しました。自身の体験から泳ぐ車椅子を作るに至り、ついに障害者でも脳波操縦できる脳波感知型水中車椅子の開発にも成功。さまざまな障害や難病によって海を体験できない子供たちに、自作のロボットを使い、長年病院などで慰問活動をしてきました。

基調講演

「海洋教育の重要性とカリキュラム開発」

東京大学 海洋アライアンス 特任教授 日置 光久氏



海洋基本法が施行されて10年、第3次海洋基本計画を策定する状況の中、日置教授は東京大学の中に、日本財団の助成による全国初の海洋教育のナショナルセンターとなる、「海洋教育促進研究センター」をゼロから立ち上げました。「海は全部つながっている。その視点が大事で、クリエイティブなもの。海洋教育は大きな可能性がある」と述べ、海洋教育に12分野があると強調しました。海と人との共生では、共生を“ともいき”と呼んで概念は変わると指摘しました。

教育長事例発表

「南さつま市における海洋教育の取組」

鹿児島県南さつま市 出口 定昭 教育長

市立坊津学園のユニークな海洋教育の特例教科「坊津学」の紹介。



先進事例発表

「海洋教育の地域展開」

神奈川県三浦市 教育委員会 高梨 真一 指導主事

三浦市と東京大学三崎臨海実験所との協定が始まり、海洋教育の連携、自然・産業・地理・暮らしを学ぶ「みうら学」の推進などについて紹介。

第14回「B&G全国教育長会議」提言

一 海洋教育の積極的推進

豊かな生活に欠かせない大切な日本の海を次世代に引き継ぐため、地域・学校・家庭等が連携し、子供たちが海を学び、海に親しむ機会を積極的に提供しよう。

参加者からの感想

- ・ 特別講演の林正道氏のご講演には胸が熱くなった。
- ・ 海洋教育の大切さを再確認。未来の子供たちが笑顔で輝けるために、海を学ぶ機会を積極的に提供していくこと、そして大切な海を守っていく人材を育てていくことの必要性も感じた。
- ・ 毎年度出席させていただいているが、その都度新しい学びが生まれる。

2018年度：2018年11月6日(火)～7日(水)開催予定

パネルディスカッション ～未来を形創る 新しい取り組み～

「子どもたちがつくるまち “ワクワクキッズタウン” ミニまつぶし」

松伏町 B&G 海洋センター
4 類（プール+体育館）

埼玉県松伏町 町長 鈴木 勝 様



松伏町 B & G 海洋センターでは、体育館・駐車場など敷地一帯を活用して「ミニまつぶし」を開催している。「ミニまつぶし」は、18 歳以下なら誰でも参加できる「子どもによる」「子どもだけ」のまちであり、毎年 2 日間で約 1 5 0 0 人程の来場者で賑わう。

タウンスクール



子どもたちが先生となって
まちの仕組みを説明

職安



各ブースの内容を説明して、
おしごとカードを渡す

銀行



仕事が終わった人に給料を渡したり、
各ブースのパンを集める



周知用のチラシも
子どもたち自身で作成する

ミニ
まつぶし
って？

自分で選んだ仕事のブースで、用意された仕事を大人の指導を受けてこなすのではなく、子どもたち同士で仕事を教えあい、工夫し、あるときは作り出し、面白さを追及しながらブースを運営する。
子どもたちが企画段階から参画し、子ども自身が楽しめるまちを年齢の異なる人と話し合いをしながら創りあげることで、コミュニケーション能力の向上や協調性が養われ、まちづくりへの関心が高まる。

「プールで泳ぐだけじゃない！楽しく水上スキー体験」

中津市耶馬溪 B&G 海洋センター
4 類（プール+体育館）

大分県中津市 市長 奥塚 正典 様



B & G 海洋センターが立地している耶馬溪ダムには、湖面を利用して春から秋にかけて全国でも有数な水上スキー会場として整備され愛好者も多数訪れている。

湖面を滑走するスポーツである水上スキーを、プールでもできないか、と考え始めた事業。大人が手でロープを引っ張るので安全に楽しく、そして簡単に水上スキーができる。



大プールでは小学校低学年から大人まで体験できるように、ウィンチを利用しておよそ 20m プールの水面を滑走



幼児用プールでは大人が手でロープを引っ張ることで、幼児や小学校低学年に、水上スキーの楽しさを伝える



未就学児には小学生が横でサポート。今年、最年少で 2 歳の子が参加



「障害児等の居場所づくり事業～みんなのおうち ぽっかぽか～」

奈義町 B&G 海洋センター

5 類（艇庫＋プール＋体育館）

岡山県奈義町 町長 笠木 義孝 様



奈義町は、2012 年に「子育て応援宣言」を行い、「子どもを安心して育てる町づくり」を進めている。保護者からの強い要望を受け、2017 年度に海洋センター体育館のミーティングルームを改修。障害の有無に関わらず、誰もが自由な時間を過ごせる「我が家のような居心地のいい居場所」として、多くの人たちが交流できる場所にするため、社会福祉協議会と連携し、様々な新しい取り組みを実践している。



ミーティングルームでのレクリエーションゲームの他、体育館でニュースポーツ等の運動も実施



障害児の保護者や養護教諭経験者等で情報交換を行っている



紙芝居や絵本などの読み聞かせも実施



ボランティアを活用し、宿題や学習支援活動を行っている

担当者の声

- ・家に引きこもりがちだったお子さんが自分の意思で遊びに来るようになった。
- ・今までは1人で悩んでいた保護者の方の情報交換、交流の場が出来た。

「スポーツだけじゃもったいない！ロビーを有効活用」

湯前町 B&G 海洋センター

4 類（プール＋体育館）

熊本県湯前町 町長 鶴田 正已 様



パブリックビューイングの実施



テレビ熊本番組収録車両の協力を得て公認奥球磨ロードレース大会映像を配信し、現地で応援が叶わない方々への視聴機会を提供

子どもの居場所づくり



健康づくり大会時に学習映像を上映した児童待機スペースとしての開放や、ALT による英会話教室を開催

珈琲教室の開催



ロビーでのサークル活動の普及と、憩いの場としての機能拡充を目的に開催

担当者の声

改修によりロビーが広くなり、空調によって一年中安心して集うことができるようになり各種サークル等で集われた方々による交流が盛んにおこなわれるようになりました。スポーツ中継を観られたり、活動の休憩時間にテレビを観たりとこれまででは考えられなかった交流場となっています。キッズスペースがあることから小さい子ども連れの利用者も増えており、多世代が集う場となりました。

また、体験スペースとして利用可能なことから海洋クラブの映像視聴の場や、イベント告知をモニターで行うなど、情報交換の場としても活用されています。

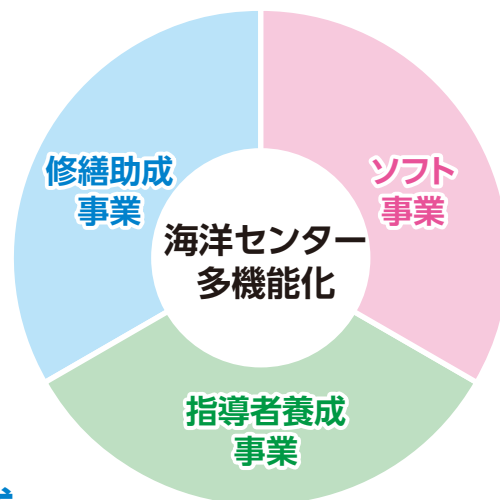
これからのB&G財団

生まれ変わる 海洋センター

全国480カ所に建設された海洋センターは、建設当時、青少年の体力向上や地域住民の健康づくりの場として多くの住民に活用されてきました。

しかし、時代の流れとともに、自治体や地域住民のニーズも大きく変わってきており、「海洋センター」をスポーツ振興の場だけでなく、誰もが集える場へと変化させ、多目的な施設としていくことが求められています。

そのため、2015年に「青少年の健全育成推進計画」をスタートさせ、海洋センターを地域コミュニティの拠点としてご活用いただけるよう新たな事業を推進しています。



誰もが気軽に集える施設へ 新たな修繕助成

2018年度の「地域海洋センター修繕助成」より、新たな利用者の発掘や大幅な利用者増員の計画が見込める多機能化を目的とした大規模修繕を優先しています。

上屋付きプールを地域密着型温水プールへ

兵庫県宍粟市千種海洋センター



バス停も新設され、千種地域の「文教ゾーン」として、小学校など近隣施設と一体的に活用

見る人も楽しんでもらえる施設へ

宮城県蔵王町海洋センター



体育館の壁面に観覧席と待機場所を増設し、見学者にとっても快適な施設となった

通常修繕

助成率

多機能化工事を優先

助成限度額

評価	基準助成率	助成率の加算 (10%以内)	助成率上限
特 A	60%以内	多機能化工事5% 自治体の取組姿勢5%以内	70%以内
A	50%以内		60%以内
B・C・D・E		対象外	

施設	助成限度額 (2001年度以降の助成額の累計)
体育館	3,000万円
プール	3,000万円
艇庫	1,000万円

特別施設整備

海洋センターの立替や移設、有効活用を目的とした施設の用途変更等の改修が対象

助成率 および 助成限度額

施設	用途変更	多機能化	助成額上限	助成率上限
艇庫	用途変更	多機能化無	1,000万円	50%以内
	特別措置	多機能化有	3,000万円	
体育館			3,000万円	
プール			3,000万円	

艇庫を活用し地域の魅力を創出！ 特別施設整備 艇庫特別措置

「艇庫を多機能化し自治体の活性化につなげたい」というご要望を受け、2018年から概ね5か年間に限った艇庫特別措置として、多機能化を目的とした艇庫の建替え・移設・増築を行う場合は、舟艇及び器材購入費も含め助成上限額3,000万円とします。



2017年度艇庫を活用した地域の連携と活性化に関するモデル事業として実施している鹿児島県天城町海洋センター艇庫イメージ図。2階にウッドデッキを設け、海洋性スポーツの見学もできる施設として2018年4月オープン予定。



艇庫に多目的のルームを設置し、海洋生物観察や海の絵画教室など多目的な利用を目指します。

多機能化する海洋センターを支えるB&G指導者を!

夏場の海洋性レクリエーションや水泳などに留まらず、年間通して海洋センターを活用し、地域コミュニティの活性化に寄与するため、2017年度から、指導員資格制度を18年ぶりに見直し、「**センター・インストラクター養成研修**」をスタートいたしました。

本研修では、ヨット、カヌー、水泳、ライフセービング等の実技ほか、避難所開設訓練やレクリエーションゲーム、環境学習の実習など、様々な教科を学ぶことができます。

海洋センターの活性化のためにも、ぜひ 定期的な参加者の派遣をお願いいたします。

2018年度：6月6日(水)～7月5日(木) (30日間) ※2018年3月詳細案内予定

▼水辺での救急救命法について学ぶ



▼自然災害発生後の海洋センターの初動体制等についてワークショップで意見交換



安全
教育

障害者
指導

スポーツ
コンプラ
イアンス

広報
活動

ヨット
実技

カヌー
実技

レクリエー
ション

水泳
実技

気象
海象

施設
管理

避難所
開設訓練

環境
教育

集団
行動

救急法

安全
管理

海洋センターの新たな活用に向けたソフト事業開発

「文化」「教育」など5つの視点から、海洋センターの新たな活用に向けたソフト事業の開発に取り組んでいます。

	文化	教育	福祉	消費	スポーツ
子育て支援		○	○		○
コミュニティ再生	○	○	○	○	
子供の貧困対策	○	○	○		○
インクルーシブ社会構築	○		○	○	○
防災教育推進		○	○		

学習と体験活動が両立した子育て支援

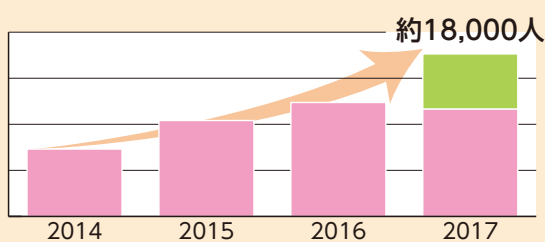
夏休みに宿題などの「学習支援」と、スポーツや「体験活動」を両立させた子育て支援を行う。



(北海道愛別町海洋センター)

海洋センターを活用したコミュニティの再生に関する事業

スポーツ以外の利用を促進し、地域コミュニティの活性化を図るため、北海道積丹町・熊本県湯前町と3年に渡り協働でモデル事業を実施すると同時に、「コミュニティ機能付加改修支援」事業にて30施設を支援。利用者人数増加や新たなコミュニティの創出に繋がっているため、汎用性の高い事業を他海洋センターにも普及促進する。



中学生対象無料学習塾



B&Gシネマ (映画鑑賞会)

北海道積丹町：利用者人数 **2.4倍にUP**

貧困の連鎖を断ち切る子供の居場所づくり

日本財団と協働し、「家でも学校でもない第三の居場所」を設置。居場所の提供・生活支援・学習支援などを行う。



障害者が集う交流の場

障害者支援施設等と連携し、アート展示やカフェ運営など障害者が多様な目的で集える場を設ける。



(兵庫県猪名川町海洋センター)

2018年度 B&G財団の主な事業（予定）

B&G財団では、海に親しむ事業をはじめ、障害者も健常者も分け隔てなく参加できる体験会やレクリエーション大会などインクルーシブな事業を展開することにより、海洋センターの活性化を図り、誰もが海に親しみを感じられるインクルーシブな社会の実現を目指していきます。

海洋教育

「海の日」と「海の安全」を学ぶ 水辺の安全教室

- ◆時期：通年
- ◆場所：東京都内小中学校、全国の海洋センター・クラブ他

B&G東京湾海洋体験アカデミー

- ◆時期：
A行程：2018年7月30日～8月3日（4泊5日）
B行程：2018年8月6日～8月10日（4泊5日）
- ◆場所：東京湾近郊（千葉県・神奈川県を予定）

砂ASOBeach(すなあそびーち)

- ◆時期：2018年6月～9月（予定）
- ◆場所：全国6か所
- ◆内容：大声選手権、砂アート、海辺のカルタ、宝探し等

インクルーシブ

障害のある子供も参加できる 「B&G全国ジュニア水泳競技大会」

- ◆時期：2018年8月
- ◆場所：東京辰巳国際水泳場（東京都江東区）
- ◆対象：小学3年生～中学生

「障害者と健常者のヨット大会」

- ◆時期：2018年7月15日～16日
- ◆場所：大分県別府市
- ◆対象：初心者から上級者までの小・中学生

児童養護施設や特別支援学校・学級の子供を 対象とした水辺の自然体験

- ◆時期：2018年6月～9月
- ◆場所：全国の海洋センター 10カ所
- ◆対象：マリンスポーツなどの自然体験

センター・インストラクター養成研修

- ◆時期：2018年6月6日～7月5日（30日間）
- ◆場所：沖縄県本部町
（マリンプアザオキナワ）



指導者養成

全国指導者会総会・指導者研修会

- ◆時期：2019年1月下旬（2日間）
- ◆場所：笹川記念会館（東京都港区）

3年に一度の開催となる総会に合わせ、研修会を実施予定。
B&G指導員をぜひご派遣ください。

B&G全国サミット

- ◆時期：2019年1月
- ◆場所：笹川記念会館（東京都港区・予定）
- ◆対象：全海洋センター所在自治体の市町村長
および教育長ほか
- ◆内容：特別基調講演、事例発表 ほか

人的会議

B&G全国教育長会議

- ◆時期：2018年11月6日～7日（2日間）
- ◆場所：日本財団ビル（東京都港区・予定）
- ◆対象：道府県連協 代表教育長、ブロック連協幹事
自治体 教育長、B&G所在自治体全教育長
- ◆内容：基調講演、教育に関する事例発表 ほか

B&G夏休みマナビ塾

- ◆時期：2018年夏休み
- ◆場所：全国の海洋センター等 30カ所
- ◆対象：地域の小学生
- ◆内容：
 - ・学習（宿題等）と体験活動（自然体験・スポーツ）が両立した教室（塾）
 - ・教員や高校生ボランティア等の募集と活用

NEW!

子育て・学習支援

修繕助成金の受付(2019年度分)

- ◆申請期間：2018年8月中旬（予定）
※申請の手引きは7月にご案内予定
- スポーツ以外の機能を施設に付加し、利用者層の拡大をはかる「多機能化」や「大規模修繕」を優先的に支援していきます！

修繕・舟艇

舟艇器材の追加・再配備(2018年度分)

- ◆申請期間：2018年3月（予定）
※申請の手引きは3月上旬にご案内予定

B&G防災教室

- ◆時期：通年
- ◆場所：全国の海洋センター等
- ◆対象：海洋センター指導員及び地域住民等
- ◆内容：防災教室、防災イベントの実施

防災

NEW!

日本財団助成申請中につき、事業の決定は年度末となるため、各事業の詳細は2018年度のブロック総会にてご案内させていただきます。

寄付金活動報告

熊本地震に対する支援

2016年4月に発生した熊本地震において、「第8回B&G全国サミット」(2016年1月開催)にて共同宣言に盛り込まれた「災害時における相互応援」を受け、特に被害の大きかった海洋センター所在自治体に対し全国のB&G所在市町村から支援物資が届けられたほか、B&G財団では支援金をお預かりし、各種支援事業を実施いたしました。

2016年度

事業名	概要
1 幼児を対象とした運動教室 「がんばろう熊本! B&G フロアリズム運動教室」	全3回(南阿蘇村、熊本市) 幼児322名 指導員23名
2 B&G指導員によるボランティア活動 「がんばろう熊本! B&G 指導員ボランティア派遣」	全4回(南阿蘇村) のべ126名 77センター
3 被災地でのマリンスポーツイベント 「がんばろう熊本! B&G フェスタ」	全2回(菊池市、宇城市) 422名



全国各地から駆けつけたB&G指導員が被災地のために汗を流した

2017年度

がんばろう熊本! B&G ウォーキングフェスタ in 南阿蘇

2017年9月9日(土)

対象: 南阿蘇村の被災者 計241名

B&G財団評議員の谷川真理さん(マラソンランナー)から熊本地震被災地支援のお申し出を受け、熊本県南阿蘇村にてウォーキング大会、サイン会、陸上講座を開催。

▼参加者の声

「子供は今なお小さな地震でも怯えてしまう。外に出て楽しく体を動かす機会はありがたい」



がんばろう熊本! B&G 帆船クルーズ

2017年7月31日(月)～8月4日(金)

対象: 熊本市、宇城市、南阿蘇村の被災者 計336名

使用船舶: 帆船「みらいへ」

帆船をチャーターし、5日間で宿泊・日帰り全5行程を実施。

参加者の引率には、熊本県連協の海洋センター担当者が交代で協力。また、寄港地である鹿児島県長島町の全面協力を得て海水浴場でのマリンスポーツや地元の子供たちとの船上交流会も開催した。見送りにくまモンも駆けつけた。

▼参加者の声

「こんな貴重な体験をさせて頂いて心より感謝致します。いつ元の生活に戻れるかわかりませんが前向きに頑張っていきます。」



子供たちの体験格差解消のための募金

全国の海洋センター利用者の方や、全国サミットなど財団事業にご参加いただいた皆様から子供たちの自然体験における「体験格差」解消のため、多くのご寄付をいただきました。

B&G財団ではこの寄付金を活用して、2017年夏、都内のひとり親家庭の親子や、全国B&G所在自治体にある児童養護施設の子供たちにマリンスポーツ体験や自然体験を提供することができました。

心より感謝申し上げます。

事業名	概要
1 ひとり親家庭対象 「海はともだち!マリンスポーツ体験会 in 葉山」	全2回 82名参加
2 海洋センターで行った児童養護施設の子供たちへの自然体験提供事業	13施設 14回 180名参加



10年連続特A評価獲得センター

海洋センター評価は、各施設の管理・運営面を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、B&G財団が行う支援活動の指標とすることを主な目的として、2003年度から導入しているものです。

評価は最優良である特AからEまでの6段階で、第10回「B & G全国サミット」では、2017年度4月度評価において特A・A評価を獲得したセンターを表彰いたします。

★10年連続「特A」評価獲得センター：11センター

1	北海道石狩市B & G海洋センター 田岡 克介 市長	
2	宮城県蔵王町B & G海洋センター 村上 英人 町長	
3	福島県小野町B & G海洋センター 大和田 昭 町長	
4	群馬県明和町B & G海洋センター 富塚 基輔 町長	
5	群馬県玉村町B & G海洋センター 角田 紘二 町長	
6	富山県南砺市福野B & G海洋センター 田中 幹夫 市長	
7	岐阜県可児市B & G海洋センター 富田 成輝 市長	
8	兵庫県南あわじ市南淡B & G海洋センター 守本 憲弘 市長	
9	岡山県瀬戸内市邑久B & G海洋センター 武久 顕也 市長	
10	愛媛県松山市中島B & G海洋センター 野志 克仁 市長	
11	鹿児島県いちき串木野市B & G海洋センター 田畑 誠一 市長	



2018年度より評価制度が大きく変わります！ (2019年4月度評価)

より細やかな財団からの支援を行う際の指標として活用するため、評価制度を見直し加点項目を細分化いたします！

主な加点項目：

- ・ 主要会議への自治体執行部（市町村長・教育長）出席状況
- ・ 指導員配置状況
- ・ センター利用者人数
- ・ B & Gプログラム導入実績
- ・ ブロック連協・道府県連協への協力

50点満点



100点満点

■10年連続特A評価 優遇措置について

地域海洋センター修繕助成2019年度申請より、「10年連続特Aセンター」への優遇措置として、助成限度額に達した施設においても1センター1施設に限り、追加支援を行います。

■2017年4月度「特A評価」海洋センター 274カ所

No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名	
1	北海道	北海道	砂川市	61	関東	福島	小野町	121	中部	長野	飯綱町牟礼	
2			小平町	62			塙町	122			飯島町	
3			厚岸町	63			北茨城市	123			上松町	
4			せたな町	64			行方市玉造	124			生坂村	
5			剣淵町	65			石岡市	125			飯綱町三水	
6			大樹町	66			五霞町	126			松本市四賀	
7			鷹栖町	67			小美玉市小川	127			松本市波田	
8			斜里町	68			常陸太田市水府	128			岐阜	可児市
9			愛別町	69			下野市国分寺	129				川辺町
10			遠別町	70			那須烏山市南那須	130				八百津町
11			新篠津村	71			芳賀町	131				恵那市山岡
12			大空町東藻琴	72			明和町	132				中津川市福岡
13			北竜町	73			玉村町	133				御嵩町
14			枝幸町歌登	74			吉見町	134				富加町
15			東神楽町	75			幸手市	135				中津川市加子母
16			名寄市風連	76			鶴ヶ島市	136				中津川市付知
17			積丹町	77			埼玉	137				静岡
18			名寄市	78			嵐山町	138			掛川市	
19			和寒町	79			久喜市栗橋	139			磐田市竜洋	
20			芦別市	80			松伏町	140			川根本町本川根	
21			上富良野町	81			白岡市	141			牧之原市相良	
22			美幌町	82			いすみ市岬	142			掛川市大須賀	
23			大空町女満別	83			横芝光町横芝	143			袋井市袋井	
24			石狩市	84			香取市小見川	144			沼津市戸田	
25			浦臼町	85			大多喜町	145			浜松市三ヶ日	
26			沼田町	86			香取市栗源	146			浜松市天竜	
27			岩見沢市栗沢	87			南房総市千倉	147			愛知	新城市作手
28			苫前町	88			成田市大栄	148				東栄町
29			滝川市	89			鋸南町	149				西尾市一色
30			古平町	90			横芝光町光	150				豊川市小坂井
31			室蘭市	91			胎内市中条	151			三重	いなべ市大安
32	弘前市	92	阿賀町三川	152	大紀町大内山							
33	平川市尾上	93	長岡市和島	153	桑名市長島							
34	鶴田町	94	佐渡市小木	154	伊勢市御園							
35	青森	95	燕市	155	菰野町							
36	南部町名川	96	阿賀野市安田	156	熊野市紀和							
37	六戸町	97	上越市頸城	157	志摩市志摩							
38	中泊町中里	98	新潟市中之口	158	亀山市関							
39	弘前市岩木	99	新潟市味方	159	滋賀	野洲市中主						
40	久慈市山形	100	新潟市新津	160		米原市山東						
41	一関市東山	101	佐渡市羽茂	161		多賀町						
42	岩手	102	砺波市	162		米原市伊吹						
43	八幡平市松尾	103	南砺市福野	163		長浜市浅井						
44	大船渡市三陸	104	高岡市福岡	164		高島市今津						
45	奥州市前沢	105	富山市八尾	165		大阪	堺市美原					
46	一関市藤沢	106	石川	166			千早赤阪村					
47	涌谷町	107	穴水町	167			能勢町					
48	亘理町	108	志賀町富来	168			近畿	南あわじ市南淡				
49	仙台市泉	109	福井	169	穴粟市千種							
50	川崎町	110	大野市	170	豊岡市出石							
51	大郷町	111	坂井市春江	171	市川町							
52	大崎市松山	112	坂井市丸岡	172	養父市おおよ							
53	蔵王町	113	甲州市勝沼	173	上郡町							
54	男鹿市	114	中央市玉穂	174	豊岡市竹野							
55	由利本荘市西目	115	山梨市牧丘	175	香美町香住							
56	八郎潟町	116	南アルプス市白根	176	姫路市家島							
57	大仙市神岡	117	甲斐市敷島	177	穴粟市波賀							
58	由利本荘市由利	118	甲斐市双葉	178	芦屋市							
59	にかほ市象潟	119	甲州市塩山	179	猪名川町							
60	山形	120	長野	180	和歌山	新宮市熊野川						

※赤…10年以上連続特A 青…9年連続特A 緑…8年連続特A 【評価期間】2016年4月1日～2017年3月31日

No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名
181	近畿	和歌山	串本町	213		広島	東広島市安芸津	245			江北町
182			鳥取市	214	中国		長門市日置	246		佐賀	鹿島市
183		鳥取	鳥取市佐治	215		山口	周防大島町	247			南島原市加津佐
184			北栄町北条	216			岩国市美和	248		長崎	佐世保市小佐々
185			伯耆町岸本	217			阿南市那賀川	249			五島市岐宿
186			松江市松江	218		徳島	徳島市	250	北九州		時津町
187		島根	江津市桜江	219			阿南市	251			中津市耶馬溪
188			浜田市三隅	220			美波町由岐	252		大分	佐伯市上浦
189			雲南市加茂	221			那賀町鷺敷	253			竹田市直入
190			松江市宍道	222			海陽町海南	254			長洲町
191			岡山市建部	223			小豆島町内海	255			津奈木町
192			備前市吉永	224		香川	高松市国分寺	256			湯前町
193			井原市美星	225			三木町	257			菊池市泗水
194			津山市加茂	226			今治市吉海	258		熊本	玉名市岱明
195			美作市作東	227			久万高原町久万	259			南関町
196			井原市井原	228			松山市中島	260			菊池市旭志
197		岡山	浅口市鴨方	229		愛媛	鬼北町広見	261			あさぎり町免田
198			奈義町	230			西条市丹原	262			いちき串木野市
199			瀬戸内市長船	231			愛南町御荘	263			霧島市牧園
200			和気町佐伯	232			今治市朝倉	264		南九州	長島町
201			瀬戸内市邑久	233			津野町東津野	265			阿久根市
202			矢掛町	234		高知	香美市香北	266			さつま町
203			鏡野町	235			四万十町窪川	267			湧水町栗野
204			赤磐市吉井	236			柳川市大和	268		鹿児島	日置市東市来
205			府中市	237			大任町	269			薩摩川内市樋脇
206			東広島市黒瀬	238			築上町築城	270			天城町
207			尾道市瀬戸田	239		福岡	久留米市三潁	271			南さつま市坊津
208			坂町	240			川崎町	272			与論町
209		広島	安芸高田市高宮	241			福智町金田	273			奄美市笠利
210			北広島町大朝	242			朝倉市甘木	274		沖縄	伊江村
211			安芸高田市美土里	243			太良町				
212			北広島町芸北	244		佐賀	神埼市				

※赤…10年以上連続特A 青…9年連続特A 緑…8年連続特A 【評価期間】2016年4月1日～2017年3月31日

■2017年4月度「A評価」海洋センター 104カ所

No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名	No.	ブロック	道府県	センター名
1	北海道	北海道	下川町	27		千葉	長南町	53	近畿	兵庫	篠山市
2			長万部町	28			香取市山田	54			丹波市山南
3			東川町	29			阿賀町津川	55		奈良	山添村
4			秩父別町	30		新潟	長岡市越路	56		和歌山	広川町
5		青森	五所川原市市浦	31			阿賀町上川	57			倉吉市関金
6			平内町	32			糸魚川市能生	58		鳥取	鳥取市気高
7			五所川原市金木	33		石川	七尾市	59			鳥取市鹿野
8		岩手	軽米町	34			白山市鶴来	60		島根	美郷町邑智
9			岩泉町	35			高浜町	61			出雲市平田
10			普代村	36		福井	越前町朝日	62		中国	新見市哲多
11			登米市中田	37			勝山市	63		岡山	浅口市寄島
12		宮城	栗原市築館	38			若狭町三方	64			新見市大佐
13			登米市迫	39			下條村	65			呉市蒲刈
14			加美町中新田	40		長野	長和町和田	66		広島	尾道市向島
15			能代市	41			山形村	67			安芸高田市八千代
16		秋田	潟上市天王	42		岐阜	恵那市明智	68		徳島	東みよし町三加茂
17			由利本荘市大内	43		静岡	高山市国府	69			さぬき市寒川
18			潟上市飯田川	44			御前崎市	70		四国	三豊市高瀬
19			柳津町	45		愛知	清須市春日	71			綾川町綾上
20		福島	本宮市白沢	46			大台町	72			三豊市財田
21			田村市滝根	47		三重	松阪市飯高	73		愛媛	今治市大三島
22			かすみがうら市千代田	48		滋賀	甲賀市甲賀	74		高知	東洋町
23	関東	茨城	笠間市岩間	49			宮津市	75			宗像市玄海
24			小美玉市玉里	50		京都	京丹波町瑞穂	76		福岡	宮若市宮田
25		栃木	那須塩原市塩原	51			京丹波町和知	77			みやこ町豊津
26		千葉	御宿町	52		兵庫	新温泉町浜坂	78	北九州		みやま市瀬高
											築上町椎田
											みやき町北茂安
											南島原市西有家
											平戸市生月
											杵築市
											国東市武蔵
											由布市湯布院
											宇佐市安心院
											日田市天瀬
											佐伯市鶴見
											国東市国見
											豊後高田市真玉
											玖珠町
											由布市挾間
											美里町砥用
											南阿蘇村白水
											宇城市三角
											宮崎市田野
											鹿屋市串良
											南九州市知覧
											南大隅町佐多
											志布志市有明
											薩摩川内市上甕
											本部町
											うるま市勝連
											名護市

【評価期間】2016年4月1日～2017年3月31日

「B&G全国サミット」共同宣言

- 一. 海洋センターとの連携
- 一. 施設の運営と管理
- 一. 積極的な事業の推進
- 一. 情報・ノウハウの共有
- 一. 環境・防災・水辺の安全教育の推進
- 一. 「東日本大震災」の復旧・復興
- 一. 災害時等における相互応援
- 一. オリジナリティを生かした魅力ある地域づくり

第10回

一. より強固な連携体制の確立

節目となる第10回「B & G全国サミット」の開催にあたり、改めてB & G海洋センターが所在する全国390自治体の絆を紡ぎ、未来を担う子供たちと、地域コミュニティの発展のために、より強固な連携体制を確立しよう。

2018年1月24日

海洋センター所在市町村長一同

